

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 9 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204748		
法人名	医療法人社団林医院		
事業所名	グループホーム夕顔の家		
所在地	広島市安佐南区八木8丁目9-23 (電話) 082-832-0355		
自己評価作成日	平成22年9月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	<a href="http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470204748&amp;SCD=320">http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470204748&amp;SCD=320</a>
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年10月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的で落ち着いた雰囲気を大切にしており、入居者様一ひとりが穏やかにその人らしい生活できるように支援しております。町内会では副会長や組長を経験し、子ども110番を設置したりで、地域行事への参加を積極的に行っております。居室からは外の日差しも入り、とても明るく開放的である。また、管理栄養士の指導をもとに、栄養バランスの良い手作りの食事を皆様に提供しており、入居者様はおいしそうに召し上がっておられます。医師による週3回の回診や看護師も配置しており、心も体も快適で安心した生活を送ることが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

・入居者がいつまでも元気で、明るく笑顔で日々を過ごせるように、時には家族の協力を得ながら入居者全員で外出する機会を設けたり、医療機関との緊密な連携に取り組んでいる。  
・管理者は職員との対話を大切にして、職員の意見を積極的に取り入れながら、長く働きやすい職場作りを目指している。  
・入居者一人ひとりの「何々したい」というニーズの実現化のために、事業所と地域の関係力を見直し、近隣の小学校のPTA会議や地域の「生き生きサロン」に出かけながら、地域との連携強化や理解・支援を得るための働きかけを継続して行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域の一員として役割を考え、スーパーや病院などの利用機関、地域住民の方々とホームの関係が保て、利用者が安心して生活できるよう家族と共に取り組んでいる。また、管理者・職員は理念の共有と実現に向けて日々の実践に努めている。	「地域社会との交流を図りながら、住み慣れた地域で安心した生活が過ごせる環境を」という地域密着型サービスの意義を踏まえた、事業所独自の理念を職員とともに作り、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	管理者、職員は地域で行う祭りや月曜クラブ（いきいきサロン）等の交流の場に参加したり、施設の近辺が小学生の通学路でもあるので、子供110番や利用者と共に安全確認なども行っている。	地域で必要とされる活動として、近隣の子供たちの安全を入居者と共に通学路で見守ったり、地域活動の情報ほ集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所主催の勉強会や、地域の方に立ち寄ってもらった時には、認知症に対する理解を促している。また、日頃からも利用者と共に、積極的に地域の方に声かけをして、安心していただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	広く意見を貰う為、運営推進会議だけに留まらず、施設内行事や地域の行事の際には情報交換や意見を聞き、利用者が地域の中でその人らしく暮らせるような支援に繋げている。また、具体的且つ継続的なサービス・向上をする為、その都度、話し合いや見直しを行っている。	会議の場では、参加者から積極的な意見やアドバイスをもらっており、ミーティングなどで話し合い、運営に反映させている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所から積極的に伝えていく為、介護保険の手続き・記録・ケア問題等、運営や現場での直面している課題に対して協議し、解決に向けて取り組んでいる。	入居者の介護保険の認定更新時や変更手続きなど、あらゆる機会を捉えて事業所の取り組みを報告し、相談にのってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>利用者が受ける身体的・精神的障害について、全職員が理解しており、必要に応じて専門職の助言を受けながら拘束しない為の支援を常日頃から行っている。又、24時間SECOMを完備しており、日中は施錠をしなくてもよく、目の届かない場所でも察知できるようにしている。</p>	<p>やむを得ない場合を除き、身体拘束をしない方針であり、現在、身体拘束はない。ミーティングや研修で職員の意識向上に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待についての研修会には積極的に参加し、勉強会で職員全員が日頃の気付きや意見を発表する場を設け、防止を徹底している。また、関係機関と協働を大切することと、管理者や専門職員へ報告書を提出し広く意見を聞き、事業所内で防止に努めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>入居者一人ひとりの身体的・精神的・経済的状況を管理者や職員が把握しており、制度の活用に努めている。制度の理解を深めるため、会議を開き随時関係者への案内を行っている。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際には、文章の提示だけに留まらず、利用者や家族に不安がないよう、十分な説明をする事と、担当職員はそれぞれの立場を考慮し、相談等があれば柔軟に対応し、納得をして頂いた上で手続きを進めていく配慮をしている。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>アンケート、相談窓口、運営推進会議の参加等、様々な手段で意見・苦情等を集めに努めている。また、日頃のコミュニケーションの中でも一早く察知し、管理者・職員が共有し、対処に努めている。</p>	<p>面会時や電話等で、家族の意見を聞き入れている。家族の面会が多く、管理者や職員は、話をする機会を多く持って、気軽に意見をもらえるような雰囲気作りを心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から、一人ひとりに意見や提案を募ると共に、会議において発表の場を設けている。管理を通じて代表者へ随時報告がなされ、運営に関する事項について意思決定がなされている。	管理者は、職員が入居者との日常的な関わりの中で生まれる、職員の意見や情報を積極的に取り入れ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援や、日頃の努力や実績等を評価し、見合ったベースアップや昇格をすることで、常に向上心を持って働けるようにしている。疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう、休憩場所と時間を設けている。また、職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質の確保、向上に向けて、事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、研修後はミーティングを行い、報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設の勉強会、運営推進会議の参加や、研修にも積極的に参加して、意見交換や情報収集を行い、サービスの質の向上という共通の目的の為、日々福祉の充実に向け活動している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の不安や求めていることを理解するため、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が受け入れられるような関係作りに努めている。また、専門的な悩みなども、担当者を交えて相談が受けれる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	日頃から家族とのコミュニケーションを密に取り、家族が求めているものを理解し、不安や思いを受け止め支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思いを聴く時間を十分に設け、状況を確認して、出来る限り対応していくように努めている。また、早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個性やその方が持っている力、どのような生活を望まれているかを把握し、利用者主体で、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、寄り添うという意識を持ちながら、和やかな生活が出来るように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族の思いに寄り添いながら、日頃の状態や思いを報告するとともに、本人と一緒に支えるために、家族と同じような思いで支援していることを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで培ってきた関係を断ち切らないように手紙やはがき、電話等を使用して関係が途切れないように、支援している。また、実際に継続して出向かれている方もおられる。	これまで本人を支えてくれている関係だけでなく、本人が支えてきた関係にも注目して、関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間での関係作りを支援しながら、孤立することなく、ともに暮らしを楽しめるよう支援している。また、利用者同士の関係性についても、職員が情報連携し共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者の事情等で利用が終了した後も相談窓口を通じて、関係性を大切にしその後の支援に応じる姿勢を示している。また、転居先に職員が訪問するなどして、関係が断ち切らないよう働きかけている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人を交えてのアセスメントで、生活歴や経験などの把握と、日々の行動や表情から汲み取り、介護計画に反映させることで、安心した生活が送れるよう努めている。また、日ごろのコミュニケーションでも、本人が活躍できる場面作りを家族とともにやっている。	本人や家族への聞き取りや、日々の関わりの中で把握に努めている。そして、本人や家族を交えて、「本人はどうか」という視点に立って話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら、本人に関わりのある方から情報の提供、協力してもらうことで、なじみの関係を築き上げ、これまでの暮らしに沿えていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員全員が、いつでもカンファレンスシートを見ることができ、利用者一人一人の能力や生活リズムを把握できるようにしている。また、変化を発見した場合には、都度、更新・見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人や周囲の方からの意見やアイデアを基にアセスメントを行い、本人がその人らしく暮らせる支援として、何が必要で、求めていることを中心に介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、職員など関係者の意見を反映させて介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の申し送りで利用者の変化を確認し記録している。申し送りノートや個別記録には、重要事項や職員しか知り得ない事実やケアの気づきを具体的に記し、職員で共有しながら、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者・家族の状況や要望に応じて宿泊や食事の提供を行っている。また、その方の状態に応じて、協力病院の通院支援や転居、同系列の転居など、その時々に対応を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が生き生きと安心した生活が送れるように、各機関や町内会等に運営推進会議の参加を促し、意見交換や協力を得て支援を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人、もしくは家族の希望する医療機関で受診している。医師の訪問診療、24時間受け入れ病院連携(安佐市民病院・野村病院)各医療機関関係者確保(外科・内科・皮膚科・歯科)により、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>本人や家族の希望する、かかりつけ医となっている。また、24時間体制による受診可能な協力医療機関がある。受診結果などの情報の共有も、図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	個別の状態をよく知る看護師が常駐しており、日常の健康面や医療面的な面について他の職員と情報を共有し対応するとともに、緊急時の対応、薬等について勉強会を開き、協働体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人のストレスや負担を軽減するために、家族と相談しながら医療機関に情報を提供し、スムーズな退院に繋がるよう退院計画を本人、家族、スタッフで話し合い、支援を行っている。又、入院された場合には、こまめに連絡を取り医師同士の連携をとって、受入れ体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時はもちろん、状況や状態変化がある際には意思確認や家族・医師・看護師・ケアマネ・介護スタッフとで話し合いを行い、その時々可能な事・困難な事を見極め、本人の尊厳や納得した最期が迎えられるよう支援している。	入居時に、重度化や終末期に向けた方針と、事業所が出来る最大ケアについて説明している。また、状況変化に応じた繰り返しの話し合いも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林医師・西野医師・看護師の指示や指導の基、全職員が対応出来るように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を経て年2回、利用者と共に防災訓練を行っており、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練や点検を行っている。また、町内会を通じて火災などが起きたときのご協力の力を得ている。	年2回、避難訓練を行い、事業所全体の消防訓練に力を入れている。地域からの協力は、地道な取り組みにより、得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員全員が利用者・家族に対して敬意を払い、本人本位に沿ったさりげないケアを心がけ、羞恥心に配慮して尊厳を維持している。また、個人情報外部に漏れないよう事業所管理を徹底している。	会議や研修で話し合い、入居者に敬意をはらい、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応など、常に心がけて支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の表情や反応、それぞれの意思表示を素早くキャッチし理解した上で、個々の能力に合わせた説明を行い、自己決定ができるようにしている。また、日常でも好みや希望など、本人が選び決めやすい場面作りや関係作りができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活リズムやしたい事、思いを尊重しながら、臨機応変に対応している。また、個別支援やその日・その時の希望や要望を本人と相談しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人ひとりの個性・希望、これまでの生活歴やその時の本人の意向を大事にし、その人らしいお洒落ができるよう支援している。また、季節感・清潔感のある服装や髪形を本人の希望に合わせて行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人ができる力を最大限且つ無理のないように活かしてもらい、準備や後片付けを手伝っていただき、空いている席で共に食事を楽しみながら、さりげなくサポートしている。また、定期的にアンケートをとり、好みの食べ物や季節感のある食事を提供している。	入居者の希望を踏まえた献立を作成したり、入居者と職員と一緒に、食事の準備、後片付けを行い、同じ食卓を囲んで食事の時間を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調と、一日の摂取量を把握し、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだり、管理栄養士を中心に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨き、イソジンの使用、義歯洗浄等は日常的に行い、利用者の力を引き出しながら清潔保持等に努めている。また、利用者によってはガーゼやスポンジなどを使用し、乾燥防止、肺炎予防を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの身体状況や排泄パターンを把握し、羞恥心や不安への配慮をしながら、見守りや困難なところはさりげなくカバーしている。	常時紙パンツを利用していた入居者の、排泄パターンを観察や記録を行いながら、排泄のサインを全職員が把握し、支援に取り組んだ結果、布パンツで排泄行為がほぼ自立となった喜ばしい事例がある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の便秘の原因を探り、食事・排泄・活動状況等を見直し、家族とも相談しながら、自然排便を促すよう働きかけている。また、必要であれば無理のない下剤調整や洗腸なども検討している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のペースではなく、利用者の希望に合わせて入浴してもらい、入浴時にはなるべく同性の職員が見守りなど行うよう配慮している。また、入浴前のバイタルチェックや、入浴後の水分補給など健康面にも気を配り、安心且つ楽しみの時間となるよう努めている。	本人や家族から一人ひとりの習慣や好みをよく聴いて、相談しながら個別の入浴支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	これまでの生活習慣を関係者と検討し、日中の活動を促しながら、本人にとっての自然な生活リズムに近づけるよう努めている。また、体調や希望、環境作りに配慮して、ゆっくり休憩や睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理事長、主治医、看護師による薬の勉強会を行い、副作用、用法、用量について理解し、職員が個々の内服薬を把握出来るファイル作成をしている。また、服薬時には飲み忘れや誤薬がないよう本人に直接手渡し、きちんと服用出来ているか細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	潜在している記憶や出来る力を最大限生かして、自分らしく暮らしていけるように、生活歴や経験を把握し、活躍できる場面作りを行っている。また、音楽療法や季節ごとの行事、地域のボランティア活動などにも参加し、楽しみ事が増えるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望に沿って、日常的な散歩や買い物はいつも出れるように支援し、重度の方でも外出ができるように介護タクシーを利用するなどして支援している。また、季節の行事や年に2回は全員で外出する機会を設け、家族の方にも協力して頂いている。	これまで通り、外に出かけることを当たり前のこととして、家族の協力を得たりしながら一人ひとりが、外出を楽しめる支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と本人の希望や意味、大切さを話し合い、個々の力量を考慮した上で、少額でも所持金を持って頂いたり、買い物に行くときは、本人が支払えるよう支援するなど、お金がある安心感や満足感を感じて頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙・暑中見舞い・年賀状等を書いて頂いており、プライバシーに配慮しながら、本人が読み書きしたり、電話を使用する事を個別で支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられる花や飾りを取り入れて、居心地良く過ごせる雰囲気になっている。リビングやバルコニーは風通しも良く、近隣の田んぼや電車の音が聴こえ、季節感を感じやすい。また、縁側や鯉の池、畳部屋など、利用者世代には馴染みのある作りとなっている。照明類も落ち着いた空間作りに配慮している。	共用空間は、入居者の家での過ごし方、馴染みのものなどを把握し、それらの情報を活かしながら、居場所が居心地良く、自分なりの活動がしやすくなるように整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になれる空間とフロアで他の入居者と過ごすソファや椅子を置き、気の合う入居者同士が、くつろげる空間を作っている。また、畳部屋を団欒スペースとして設けたり、バルコニーに椅子を設置するなどして、時々の気分によって過ごせる場の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた調度品や使いやすい物を購入したりと、居心地よく、またプライバシーに配慮して、本人にとって安心できる雰囲気作りを、本人・家族と共に築き上げている。	以前から使っていたタンスや椅子を持ち込み、個々の落ち着ける空間作りをしている。家族の写真や、置物からも入居者の個性や若い頃の思い出を感じ取ることができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各扉などに場所や説明の札はもちろん、利用者の視線に合わせ、設置の高さや文字の大きさ、絵を取り入れるなどして工夫している。また、個々の身体状態や能力、安全を配慮した上で、家具の設置や物の在りかを分かりやすくしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	●ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	●毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ●利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ●利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	●ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input checked="" type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③ 家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム夕顔の家

作成日 平成22年 12月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19	会議・行事等においてまだまだ家族参加が少ない	一人でも多くの方に参加していただき定着できるようにする	お知らせを配布することと来所時に参加の意義について説明を行う	3か月
2	3	地域の方々に施設に来ていただく機会が少ない	毎行事に一人でも参加していただく	行事等がある際には広告の配布や直接参加のお願いをする	3か月
3	4	施設内での消防訓練は行っているが、広く参加もなく、施設外訓練や、さまざまな訓練実施がなされていない	まず、運営推進会議を通して知ってもらい参加していただく	運営推進会議に実施日を合わせ家族、地域の方々に参加を促す	3か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。